

授業改善推進プラン<教科別>

(別紙4)

		学校名	旭町	小学校
算数	課題分析 (学力調査結果、定期考査、授業の実態等)	授業改善策	補充・発展的指導計画	評価(◎○△)
1年	<ul style="list-style-type: none"> 計算の技能に個人差がある。指を使って考える児童が多く、答えを出すまでに時間がかかる。 文章問題では、問題を十分に読まずに立式したり、問題の把握に時間を要する児童がいる。 自分の考えを基に、友達のと比べようとする児童が少ない。様々な見方で、問題をじっくりと考え、取り組もうとする姿勢に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードを用いながら反復練習に取り組ませる等、答えが素早く出せることを目標にする。 半具体物や図などを使い、問題場面をとらえる活動を多く行う。加法か減法かを判断できる言葉を提示して立式するよう指導する。 授業内容をTTの先生と相談し、支援の仕方を工夫する。 自分の考えをもつためのヒントを提示し、二人組など近くの友達と考えを伝え合う場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数の合成・分解の問題に繰り返し取り組みせ、素早く答えを出せるようにする。 ICT機器を効果的に活用し、計算問題や問題づくりに意欲的に取り組めるよう支援する。 担任やTTの先生による個別指導で補う。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えと友達のと比べ、自分の考えをさらに深めようとする児童が少ない。様々な見方を基に、自分なりに問題を考え、粘り強く取り組もうとする姿勢に課題がある。 中学年の学習に向けて、自分の考えを様々な方法で表現する力に課題がある。 問題文をよく読まずに問題を解こうとしてしまう児童がいる。また、テスト等では見直しをせず、ケアレスミスにより点数がとれない児童がいる。 量感をつかめていない児童がいるため、長さや水のかさ等の単位を正しく理解できていないことがある。 学習の理解度に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な考えが分かるように掲示したり、話し合いをしたりしながら、それぞれの考えを深める場面を設定する。 基礎的な練習問題を繰り返し解くことを通して、素早く正確に計算する力を身に付ける。 かけ算九九の習得については、授業だけでなく、家庭でも繰り返し練習できるような工夫をする。また、文章題については、文章に線を引かせるなどをして意味を正しく理解し、立式できるようにする。 学力向上支援講師と連携し、学習の支援を行う。 既習内容を想起させ、具体物や半具体物を用いた授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業を行う。 習熟度別にプリント等を用意し、自分に合った課題を選択して学習に取り組ませる。 担任や学力向上支援講師による個別指導を行い、児童間の理解の差を補う。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> かけ算九九等の基礎学力の定着に個人差があり、計算処理能力に課題がある。時刻や時間を求める問題に消極的な児童が多い。 既習事項や図、表、数直線等を活用して、自分の考えをまとめたり、説明したりすることへの取組姿勢に差が見られる。 間違えた問題に対して、自分で見直したり、粘り強く取り組もうとする姿勢に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の分析結果や系統性を重視した練習問題プリントを作成し、朝学習や家庭学習で取り組ませて基礎学力向上を図る。 具体物や半具体物を活用し、意欲の向上を図る。 学年で共通のノート指導を行う。 課題解決に向けて、系統性や既習事項を確認させる。 友達との意見交流の時間を確保して繰り返し指導する。 間違えた問題の見直し時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて個別指導で補う。レディネステストの結果からクラス分けをし、苦手な部分の課題を解決できるようにする。 学習の流れを学年で統一する。 習熟度別に課題や教具、指導方法を工夫する。タブレットの二次元コード付き教材やICT機器を活用する。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力定着に個人差がある。九九が定着しておらず、3桁のかけ算、わり算の筆算に時間がかかってしまうことが課題である。また、単位換算ができない児童が多い。 既習事項や図、表、数直線等を活用して自分の考えを書いたり、積極的に説明したりすることが課題である。 計算問題、筆算、分度器、コンパスの使い方等の基礎的・基本的な技能の定着が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や家庭学習で活用できる練習問題プリントを作成し、基礎学力向上を図る。 既習事項を確認しながら、友達との交流の時間を生かして、自分の考えを深める学習を行う。 ICTの活用や既習事項と関連付けながら、学習状況を確認し、定着を図る。 デジタル教科書を活用し、作図練習等に繰り返し取り組むことで、基礎的・基本的な技能の習得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態に応じた個別指導を行い習熟を図る。レディネステストからクラス分けをし、実態に応じた学習内容にする。 ICT機器を活用しながら、学習理解を深める。 学習の流れを学年で統一する。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用した課題解決に個人差がある。自分の考えを図や数直線等を用いて積極的に説明しようとする姿勢に課題がある。 基本的な計算技能の個人差が大きい。 友達の説明を聞き、自分で理解しようしたり、自分の考えと友達のと比べたりすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・判断力・表現力の育成に向け、既習事項を確認するとともに、系統性を意識させる。 誤答や途中式などを提示して、多面的に考えさせる。 ICT機器を活用し、計算や作図練習を行う等、繰り返し取り組むことを通して、基礎的・基本的な技能の習得を図る。 既習事項の振り返りを大切にし、過去の学習と現在の学習を結び付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の分析結果や系統性を重視した練習問題プリントを作成し、基礎学力向上を図る。 児童の実態に応じた個別指導を行い習熟を図る。 導入の仕方を工夫する。課題を初めに提示し、解決の見通しをもたせる。 ドリルパークを活用し、個人のニーズに合った学習ができるようにする。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着、学習への意欲や取り組む態度、ノートに考えを書いたり口頭で説明したりする表現力に個人差がある。 既習事項の活用が十分にできず、新たな課題解決が困難な児童がいる。 友達同士での教え合いにはよく取り組むが、発表場面での説明が苦手な児童が多い。 ノート整理において、なぜそのような答えになったのか、どのように考えたかなど、考えを図や式、言葉で表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れの中で児童の理解が追いつかない部分を見つけ、無理なく小さなステップで理解できるよう授業の流れを工夫する。 単元や授業の前半部分で既習事項を振り返る場面を設定したり、既習事項を定着させる問題に取り組ませたりして積み重ねをする。 自由に課題解決に向けて話し合う時間、ペアで発表に向けて説明の仕方を話し合う時間を分けて設定する。 図や数直線などを意識的に使わせて、他者に分かりやすい表現を身に付けさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導や個別指導を精選しながら授業を展開する。 レディネステストからクラス分けをし、苦手な部分の課題を解決できるようにする。 ICT機器を活用しながら、学習理解を深める。 	